

ひとりひとりひかる

きぼう

2004 10/1
第38号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 尾西市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp
榎の木園 : kasiem@k3.dion.ne.jp 榎の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp
かしの木 ホームページ [http : www.h3.dion.ne.jp/~kst/](http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/)



尾西市役所 4階 社会福祉センター



尾西市役所4階、社会福祉センターに、榎の木福祉会の3施設・かしの木の会の活動を紹介する展示コーナーを、常設しました。

尾西市当局及び社会福祉協議会の、ご理解・ご協力の賜ものと感じています。昨年度までは、尾西文化会館1階、旧社会福祉協議会入り口にて、かしの木の会やかしの木の里の自主製品を展示即売していただきましたが、今年度からは、即売はなくなりました。しかし展示パネルも一新し、榎の木園の自主製品も加わって、ますますきれいに、パワーアップしました。みなさんも、市役所などにおみえの際には、お立ち寄りください。

(第38号 きぼうの目次)

表紙	写真	目次	P. 1
福祉情報コーナー	社会福祉最前線①		P. 2~3
地域福祉コーナー①	福祉フェスティバル		P. 4
地域福祉コーナー②	福祉サービス事業所探訪		P. 5
かしの木の会コーナー①	かしの木フェスティバル		P. 6
かしの木の会コーナー②	あつとホーム委員会		P. 7
施設コーナー①	榎の木園		P. 8
施設コーナー②	榎の木作業所		P. 9
文芸コーナー①	そうぞうのとびら展		P. 10
文芸コーナー②	トリイヘイデンって知ってますか		P. 11
お知らせコーナー			P. 12

福祉情報コーナー

社会福祉最前線①

介護保険制度と

障害者福祉の統合論から

障害者福祉は、昨年より基礎構造改革の中で措置制度から支援費制度への大改革を遂げた。ところが、その初年度から新しい制度の財政が成り立たないことから、「一般財源化を進め、障害福祉を各自治体が全部責任を持つ道」、若しくは「介護保険との統合への道」が浮上している状況。措置制度から支援費制度へどう変わるのか学習会を重ねて来て、なんとかスタートを迎えたばかりなのに支援費制度を支えるレールがすぐ先にはないという。

本年2月4日の中日新聞では、「揺れる障害者支援費制度一介護保険との統合に不安」との見出しの記事が出た。ホームヘルプサービスなどの利用量が、国の予想を大幅に上回り、初年度から予算不足に陥った。例えば、名古屋市では居宅生活支援サービスの支給決定者が措置時代に比べ二倍以上に増加した。

そこで統合への不安のひとつは、介護保険は要介護度によって受けられるサービスに上限がつくことへの問題。同記事で紹介されていた日本福祉大学生は、交通事故で

頸椎を損傷し車椅子生活になった大きな支援がいる例。刑務所にいるように拘束される施設生活を三年半。支援費制度が始まって暮らしが大きく変わった。生きるために必要な介助が支援費で保障されるようになった。現在認められている1日16時間のヘルパーを利用し、障害者福祉の研究をしながら、自分なりの学生生活を送っている。

それを介護保険との統合となると、最重度の要介護5に認定されたとして、1日3時間程度しか利用できなくなる。「自分らしくどころか、生きても行けない」ことになることへの不安だ。

本年6月22日の朝日新聞では「障害者支援費制度170億円の不足」との見出しの記事の説明はこうだ。身体・知的障害者を対象にした障害者支援費制度で、04年度の国の在宅サービスの補助金が当初予算で約170億円不足する見通しであり、財源の目途は立っておらず、障害者の生活や市町村財政への影響は避けられない、という。しかも、在宅の身体・知的障害者約380万人のうち、制度を利用しているのは1割にしか満たない。05年度以降も需要はさらに伸びる可能性は高く、制度の抜本的な見直しが迫れるとある。また、約3500億円の支援費予算のうち、6割超が入所施設関連に使われ、在宅は20%に満たない予算配分だとの説明。いつしか入所

施設に風が当てられている。ここで、『介護保険と障害者支援費制度の比較』を本年2月10日の朝日新聞から引用してみる。

財政論では、このような話を聞いている。本年2月の“アメニティフォーラム in しながわ”に参加した時のこと。厚生労働省保険局長の辻さんの話しを聞いた。国はこれ以上国債に頼れないから、(平成)16年は年金改革、17年は介護保険、18年は老人医療、そして19年は税制改革へと急ピッチに進められていくと。日頃テレビでは小泉首相は「私の任期中には消費税はあげない」と言っているが、07年には、2ケタの消費税増税の計画が進められているとのこと。

ここで、『介護保険と障害者支援費制度の比較』を本年2月10日の朝日新聞から引用してみる。

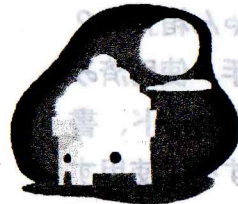
この比較表から見られるように、利用者数は約10対1。規模から見ても対等合併でなく、吸収合併の様相。財源については、介護保険は税金が2分の1。国の責任が2分の1あり、自治体の一般財源化よりは基盤がしっかりしているとも言える。負担は、障害者は生まれた頃からのハンディであり、年金による収入だけの人ほとんど。それを、長年貯蓄をしてきた老人と同じに1割を応益負担になるとたまらない。サービスについては、まず、その生活が老齢期と児童・青年・成人期とは自ずと違う。ハンディの状態や特徴も違うから、両者を同じ物差しで区分できるとは思えない。サービスメニューについても介護保険がADL(日常生活自立度)を支える制度であり、支援費制度はプラスQOL(生活の質)を支える制度のはずなので、単なる統合はせつかくの支援費制度の理念が地に落ちるのではないか。

介護保険と障害者支援費制の比較

	介護保険	障害者支援費制度
実施	00年4月～	03年4月～
利用者	被保険者40歳以上。要介護認定371万人(03年10月)	身体・知的障害者(児)。精神障害者は対象外。支給決定者39万人(03年4月)
財源	保険料50%、税金50%	税金(自治体の支出と国の補助)
負担	1割自己負担と保険料(65歳以上の基準月額平均3293円)	利用者が所得に応じて負担
サービス	要介護認定(要支援～要介護5)に応じた支給限度額有り	聞き取り調査などで市町村が支給量を決定

これだけ異なる制度をいったい統合できるのだろうか。次回に続く。

かしの木の里職員 石田



地域福祉コーナー①

今年も福祉フェスティバル

びさいを開催しま〜す！！



※なかなか賑わっておりますぞ！！

11月23日(火)の勤労感謝の日に、今年も福祉フェスティバルびさいを開催します。一宮市、木曾川町との合併も目前になり、「尾西」の名前を銘打った最後の福祉フェスティバルになります。また、今年是人権擁護委員会との夢のコラボレーション！？で、講演会も例年になく豪華な方を招いています。誰がみえるかは、このページのどこかに似顔絵があるはずなのであて



(答えは、このページの最後の方で発表します。分かるかな?)

ところで、みなさんは、フェスティバル会場(市民会館)の入り口に「善ちゃん箱」があるのを知っていますか?何をいれる箱かも知っていますか?「善ちゃん箱」は2つありますが、どちらも古切手、使用済みテレホンカード、プリペイドカード、書き損じハガキなど(もちろんすべて使用す

る前の物でもいいのですが…)を入れる箱です。日頃から集めてはいますが、フェスティバルの時は、いつもの何十倍もたくさん集まります。持ってきていただく時にみなさんに注意していただきたいことは、古切手ならば切手のまわりを1cmくらい残して切り取っていただくことです。使用済みテレカ、プリカならば、折れ曲がっておらず、汚れていないものをお願いしています。古切手も使用済みテレカもですが、日本の風景や美術工芸品の絵柄のものは人気があるそうです。どのような流れで、こういった収集物が福祉に役立てられているかは、フェスティバル会場で調べてみてください。ちなみに、使用済みテレカ1枚でできる事、何があるのか知っていますか?例として、駆虫薬を3錠できます。まさに「小さなことからコツコツと」ですね!!今年もたくさんのボランティアさんが参加して、たくさんのブースをだします。いつにもまして、力の入ったフェスティバルなので、皆さんもぜひ遊びに来て、楽しんでいて下さい。ちなみに、今年の講演会は西川きよしさんでした。面白い話をしていただけるとと思いますので、本当に楽しみですね!!



※みんな楽しそうですね!!

地域福祉コーナー②

地域福祉サービス事業所探訪①

身体障害者ディサービスセンター 「みんなの家」



「みんなの家」は、有限会社・サーブ介護センターが外出支援事業からスタートし、平成15年11月よりディサービスを開始しました。現在利用契約をしている方は、約50名程で、その内、1/3の人が重複障害を持ってみえるそうです。尾西市の人が半分以上、一宮市・木曾川町・祖父江町からの利用もあります。ディサービスの利用定員は15名。7～8名の職員で対応してみるそうです。訪問介護等の職員も合わせると60名もの職員がいて、その内20名が男性職員、勿論全員がヘルパーの資格を持っているとのことでした。

(有)サーブ介護センター 代表取締役 後藤献児朗さんに、色々なことを伺ってみました。

- Q. 作業内容は？
- A. 紙すき、手編み、コンピューターなど色々です。利用者には一通りやってもらって、その人に合ったことを日中活動としてやってもらっています。
- Q. 利用者の負担額は？
- A. 支援費制度で行っていますので、基本的にご本人に収入が少ない場合、食材費程度の負担で利用できます。
- Q. 身体障害と知的障害の重複している方の受け入れについては？
- A. 目立った多動や奇声がなく、ディサー

ビス中、周りとの協調がとれる程度であれば可能です。

Q. 知的障害者のディサービスを実施する予定はありますか？

A. やりたいとは思っていますが、知的障害者に接する専門的スタッフがいないので未定です。

代表の方は、このディサービスの特徴として、利用者に年齢の幅があるので、若い人が年輩の人に、いろいろ聞いたり教えてもらったりして、家族的な雰囲気で行っていることも話してみえました。さらに、地域福祉については、尾西という地域の中で、あらゆる福祉サービスの事業者が、連携を持った仕事をし、対象となる人によりよいサービスを提供できるようなネット



ワークが必要である。と熱く語

（食事風景）

事業内容


	ディサービス	ホームヘルプ
営業日	月曜～土曜日	月曜～土曜日
時間	9:30～15:30	7:30～20時頃まで
休日	日曜日・年末年始	日曜日・年末年始
対象年齢	18歳～64歳	年齢制限なし

(有)サーブ介護センター
身体障害者ディサービスセンター
みんなの家 (尾西市開明)
電話 (0586) 47-3282

かしの木の会コーナー①

第5回かしの木フェスティバル

～笑顔の輪 みんなでつなげるこの街に～

平成16年11月13日(土) 

第4回かしの木フェスティバルは、あいにくの雨にもかかわらず2,000人余りの方々にお越しいただき、大盛況のうちに終えることができました。これもひとえに地元の皆様をはじめボランティアの皆様、ご来賓の皆様、そしてかしの木の会員の皆様のご尽力の賜物であると心から深く感謝いたします。



一宮女子高校 太鼓部の演奏

ところで、かしの木フェスティバルも今年で5回目を迎え、富田地区を中心とした尾西市のお祭りのひとつとして定着してきたように感じます。それは、この行事を通して新しい出会いが生まれ、そこから人と人がつながり、それが大きな輪のように

なって徐々に広がっていったからではないでしょうか。ご存知のように、わたしたちの目標はハンディキャップのあるなしにかかわらず、すべての人がお互いに支え合いながら安心して普通に暮らすことのできる地域づくりです。わたしたちは、これからもかしの木フェスティバルのような行事を契機とし、地域の皆さんと出会い、語り合い、共感し合うことによって、「人の幸せとは何か」の答えを求め続けていきたいと考えています。

さて、そこで今年度のテーマですが、～笑顔の輪 みんなでつなげるこの街に～とさせていただきます。

この街に暮らすすべての人たちがいつも笑顔で満たされ、豊かな人生を送られることを願っています。



模擬店販売 今年もやりま～す

かしの木の会コーナー②

在学生の会 (あっとホーム委員会)

より!!!

今年度よりかしの木の会の中に新しく「あっとホーム委員会」が組織され、私たちはその中のひとつである「在学生の会」です。

4月以降新しい仲間も4名増え、主に中学生以上の子供をもつ保護者11名で活動しています。



※麦の会もがんばるぞお~!!

在学生の保護者にとって一番の不安、心配事は、学校卒業後の進路についてです。障害者雇用促進が叫ばれて入るものの、近年の経済状況の中、知的障害者にとっては厳しいものがあり、また既存の作業所等はどこも定員いっぱいという状況です。学校卒業後、日中規則正しく通え、本人が生きがいを持って活動できる場所を確保することは、とても難しい状況にあります。このような状況の中「学校卒業後の日中活動の場の確保」を第一目標にして、定例会、行政への相談、要望、施設見学などを行ってきました。そして、話し合いを進めていく中

で、7月末より「あっとホーム委員会・在学生の会」ということではなく、地域の方々にもわかりやすく支援していただけるように、「尾西に作業所を作る会・麦の会」として、子供たちが生まれ育ったこの尾西に新たな作業所を作ることをめざして、活動していくことになりました。現在は、在学生の会の保護者10名でスタートしていますが、麦の会は在学生だけでなく、学校卒業後一旦は就職したものの、何らかの事情で職を失い在宅になっている人など、日中活動の場を必要としている人も、共に活動に加われるような会として歩んでいければと思っています。麦の会としては、8月上旬に市役所福祉課に「地域で暮らしたい」という保護者の切なる思いを綴った文章を提出させていただいたり、檜の木盆踊りに出店させていただいたりして一歩踏み出しました。今後は、資金作り活動、地域の方への啓蒙活動、施設見学等勉強しながら活動していきたいと思っています。皆様の暖かいご理解ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。



※なかなかうっ…売れるのだ。これがっ!!

施設コーナー① 檜の木園

第4作業室って知ってますか？

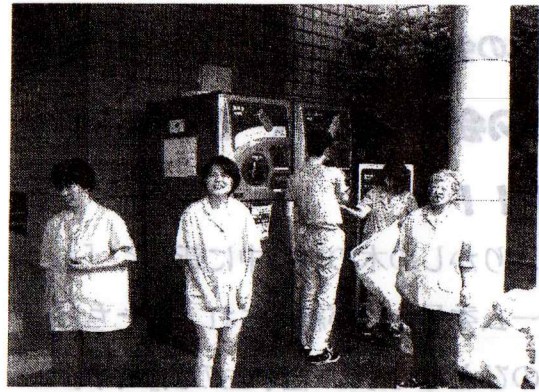
昨年も、この頃、檜の木園第3作業室誕生と書いたばかりですね。それが、また新しい作業室を作ってしまった。檜の木園は建て増したのか？いえ違います。今ある部屋を工面して、作業室を増やしたのです。昨年までの第3作業室で、メンバーも3名ほど増えて、新しい活動を始めました。

これまでの檜の木園

檜の木では、作業を日中活動の中心におき、働く大人として「労働—賃金—生活」の学習をしてきました。作業の場面でのより前向きさ、自立、就職に向けてのとり組みを檜の木園、檜の木作業所と連動しておこなってきました。その成果もあり、何人かの就職者もあり、檜の木園から檜の木作業所で作業をがんばってみえる人があります。しかしその反面、作業よりも自分の健康面や基本的な生活習慣が大切であると主張した方々には、不自由な思いをさせたと後悔しております。かしの木の里での「らちえっと」を利用している方々がそうです。

第4作業室は、自己実現の場

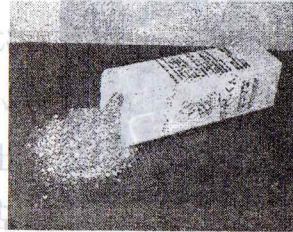
そこで、作業という素材や場面で、思うように自己実現できなかつたり、自分らしさを出せない方々に、もっとゆっくりした日中活動の場を提供しようとしたのが、第4作業室です。このグループには、午前中は今まで培った軽作業を、午後からは、作業室に留まらず、色々な活動をしていただくと考えています。その一つがペットボ



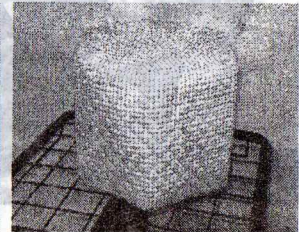
(ペットボトルの回収機投入場面)

トルの整理と、回収ボックス投入です。

そして、「EMボカシ」の制作もやっています。また、最近では牛乳パックリサイクルでのスツール（こしかけいす）制作もその一つです。また、今後は、農作業や園芸にも取りかかりたいと思っています。



(EMボカシ)



(スツール)

これからの檜の木園にできること

支援費制度となり、利用者は施設と契約を結び、サービス内容を選択し、自己実現を図るという姿勢に変わってきました。檜の木園も、そのように変わっていければと思っています。作業に励む人は、そのとり組みに、自分の個性を磨く人は、また違ったとり組み、体のことをケアする人は、そのとり組みと・・・色々なメニューを用意できればよいと思っています。それが、みなさんが求める檜の木園の機能であり、課題と思っています。

(檜の木園 職員一同)

施設コーナー②

檜の木作業所 作業室別レクリエーションは こんな風にやっています！

檜の木作業所のレクリエーションを紹介させていただきます。昨年度より新しい試みとして作業室別のレクリエーションを行っていますが、これがなかなか好評で、利用者みなさんも大変楽しみにしています。同じ部屋で仕事をする仲間同士で余暇を過ごすため、特に気を使う事も無くいつもの調子でレクリエーションを楽しむ事ができます。作業所全体で行うレクリエーションはもちろん楽しいに決まっていますが、たまには身内だけで遊びに行くのもいいですね。行き先や目的については利用者さん一人一人が意見を出し、内容を具体的に決めていきます。

昨年度は初めてということもあり、とりあえず一年に一回だけ試験的に企画してみました。そして各作業室で話し合った結果、映画館に行きたいという声がA・B・Cの各作業室とも非常に多かったため、それぞれで映画を見に行くことになりました。(ファインディング・ニモ、ピーターパン)上映中は全員が巨大なスクリーンに吸い込まれるように見入ってしまい、あっという間に時間が過ぎていきました。映画鑑賞後の感想も大変良かったとの意見が多く、利用者さんが自分たちで話し合って決めたことの満足感と実際のスクリーン(画面)のスケールの大きさに大興奮でした！！



※楽しいデイ・キャンプ！！



※本物の一宮七夕まつりだよ！！

その好評さもあって、本年度の作業室別レクリエーションは3回(4月・9月・3月)実施する予定です。

＜4月の作業室別レクリエーション＞

- (1)A作業室「なはなの里」:チューリップが満開で大混雑でしたがとっても綺麗でした
- (2)B作業室「花フェスタ記念公園」:バラの種類がとにかく多く良いにおいでした
- (3)C作業室「谷汲温泉」:仲間と温泉の浸かり、近くの公園でワラビ採りをしました

利用者さんの声も、今では「今度のレクリエーションはどこに行くの?」から「今度のレクリエーションは〇〇に行きたい!」、「ねえ、どこかいところ知らない?」というように、言葉の使い方に変化がみられるようになりました。それは、今までの受身的な姿勢から自らの意見や疑問を直接相手に伝えようとする積極的な姿勢への大きな飛躍ではないでしょうか。この力強さをレクリエーション以外の場面でも発揮し、生活のあらゆる面において前向きになっていただけたらいいなあと思っています。

今後とも楽しく中身のあるレクリエーションを企画していきたいと思っております。

文芸コーナー① そうぞうのとびら展

かしの木の里では4年前より絵画クラブでその年描いた作品を毎年、尾西市三岸節子記念美術館にて展示し、広く皆様に見ていただいて参りました。今年は4回目を迎えることができ、絵画のほかに昨年から発足しました自由創作クラブの創作作品も少しながら展示させていただきました。

自由創作クラブはかしの木の里の余暇の時間を使って様々な素材を用いて自由にものを作るにより、かしの木の里の仲間たちの中に秘められている可能性を引き出せたり、発掘できたらという思いで活動しています。外部から講師をお招きして見本を提示し、毎回違ったテーマに挑戦しています。フェルトを綿布に針で打ち付けることにより愛嬌のある顔であったり、朝焼けの雲や花畑のように見える作品ができました。長い巻物状の茶紙等をキャンバスにして皆で思いおもいに描き1つの作品に仕上げたりしています。この活動がさらに発展し、収入や職につながるよう自立の第1歩となれるよう展開していきたいと思っています。

絵画は今年もどの作品もその人にしか描けない自分らしさの表現されたすてきな作品になりました。人はだれでも絵を描いたり、ものを創作する力を持っています。絵をうまく描くには、花を花らしく描くには、基本的な知識や技術を身につけなければならず、指導が重要だとされていたようですが、最近になって、自由な美術的表現は、

人の心の深いところと関わりがあり、人の心が反映されることがわかり、人の心の成長に役に立つという考えになってきているようです。絵画クラブでは指導はしないとより皆に指導することなんてないといった捉え方で、ただ純粋に絵を楽しんで描ける環境作りをし、その人の感じたままの美術表現をしてみようと考えて活動してきました。

「そうぞうのとびら展」のすぐ後に3日間同じ美術館において第1回「尾西絵画写真連合展」が行われました。尾西市において活動されている画家や写真家の皆さんが市制50周年ということで一同に会されたものですが、かしの木絵画クラブもお誘いいただき20点展示させていただきました。

美術表現が生きる力となり、豊かな心を育てるということにハンディを持っていようがいまいが変わりはありません。地域の皆さんとこのように美術表現を通じて共に1つのことができたということが嬉しく、絵画クラブに来ている皆さんにとっても励みとなったことでしょう。

この2つの展示会で、1点でも2点でも心惹かれたり印象に残る作品があったら幸いです。



文芸コーナー②

「トリイ ヘイデン」を知っていますか？

3年ほど前、テレビドラマで「アルジャーノンに花束を」という番組があったのを覚えていますか？ 知的障害者の主人公が医学的な療法で、知能を身に付けていくというフィクションでした。恋愛もし、冒険もするチャーリーという主人公を、ユースケサントマリアが演じました。これも、賛否両論がありました。現代社会をすどく風刺していました。作者は、「ダニエルキイス」といいます。

この作家が、大絶賛した本が「シーラという子」です。著者は「トリイ ヘイデン」といい、アメリカの教育心理学者です。彼女は、学生時代に未就学障害児を世話するボランティアをして以来、教員や精神医学研究者として、情緒障害児教室、精神病院、福祉施設などで働きました。それらの体験をもとに、この「シーラという子」を書き上げて、ベストセラー作家になったということです。

「シーラという子」の内容はというと・・・傷害事件をおこした6歳の女の子「シーラ」が、情緒障害児教室のトリイ先生のところにやってきた。シーラは、何もしゃべろうとせず、泣きもせず、指示すると怒り狂い金切り声をあげて大暴れするという始末。そんなシーラにトリイ先生が、とことん寄り添い、辛抱強く接している内に、彼女がすばぬけた知能の持ち主であり、そして、心身に虐待による深い傷を負っているこ

とがわかってきた。この家庭内暴力、貧困、性的虐待に舐まれた少女が、おそるおそる心を開き、献身的なトリイ先生と深い絆で結ばれていくというストーリーです。

読んでいくと、確かに過激な表現があったり、悲劇的な描写があったりします。しかし、人と人の心のやりとりが、読む側の心を揺さぶり、泣かされます。みなさんも、一度読んでみてください。

この本の続編に「タイガーと呼ばれた子」があります。

これも、また感動させられます。

その他、「幽霊のような子」「愛されない子」「よその子」「檻のなかの子」など

があります。(ホームページから)

「ダニエル キイス」がフィクション作家であるのに対して、これらの「トリイ ヘイデン」の作品は、すべてノンフィクションです。それだから、現場の声が生で伝わってくるのです。私たちのような施設職員が大いに学ぶべき内容にあふれています。福祉に関心がある方、福祉の仕事に携わって見える方、是非読んでみてください。お勧めの一冊です。

(榎の木園 職員)



お知らせコーナー②

行事予定 10月から
10月22日(土)、23日(日)

尾西まつり、福祉作品展

10月30日(土)

榎の木園バザー 午前10時より

11月13日(土) 文化の日

かしの木フェスティバル

11月21日(日)

クリーン作戦

11月23日(火) 勤労感謝の日

福祉フェスティバルびさい



御願
広報研修委員会からの御願
「きぼう」の記事を募集して
います。どんなことでも、かま
いません。身近な情報、話題を
お待ちしております。
広報研修委員会まで

平成16年度普通救命講習会
第1回 平成16年12月19日(日)
・9:00~12:00(3時間)・尾西市消防署研修室
・費用 無料 ・参加対象者 尾西市内在住・在
勤で中学生以上 申し込みは↓
尾西市消防署救急係 0586-62-3163 ダイヤルイン

第5回 かしの木フェスティバル の日程変更のお知らせとお詫び

毎年恒例になりました、「かしの木フェスティバル」ですが、日程が変更となりました。

期日 平成16年11月13日(土) 場所 富田山グランド

一部ポスター・ちらしにて、誤った予定が伝えられたことを深くお詫びするとともに、
当日、土曜日ではありますが、大勢のご参加をお待ちしております。また、前日の準備や、事後の
後片づけも、忙しい中とは存じますが多くの方のお力をお借りできるよう、
御願い申し上げます。



☆ 随時 作業・行事ボランティアさんを募集しております!!

詳しくは、かしの木の里 0586-63-2111 担当 武田まで。

尚、かしの木の会/手芸品 かしの木の里/自主
製品を、かしの木の里・施設内にて販売して
おります。榎の木園にて花苗を販売して
います。お立寄りの際はどうぞご覧下さい。

榎の木園ボランティアさん募集

どのような内容でもかまいません。

行事を共に楽しみたい方

作業を共に励みたい方

連絡をください。 榎の木園 丹内まで

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県尾西市富田字砂原 2147 番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

榎の木福祉会☆榎の木作業所 尾西市富田字漆畑1 6番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514

☆榎の木園 尾西市富田字若宮1 7番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253

☆かしの木の里 尾西市富田字砂原2147番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200